



2026年3月24日

## 日本財団 2025年度 助成事業

# 「外国人介護人材等の訪問におけるケアの質向上のための 生成AIを活用したケアマニュアルの調査研究」 ～本事業の概要について～

Supported by



THE NIPPON  
FOUNDATION

特定非営利活動法人

全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会

〒105-0013東京都港区浜松町1-19-9井口ビル3階

TEL03-6430-7916

FAX03-6430-7918

<https://www.shoukibo.net/>

E-mail [info@shoukibo.net](mailto:info@shoukibo.net)

LINE

公式アカウント  
はじめました!

詳しくはこちらをクリック▶



**いいケアとは何か・・・**

**(“小規模多機能”創設から20年間の悩み?!)**

## 1. 事業目的

6月にとりまとめられた「外国人介護人材の業務の在り方に関する検討会」の中間まとめでは、訪問介護・訪問入浴において一定の条件の下、外国人介護人材の従事を認めるべきとの方向性が盛り込まれた。

現在、小規模多機能型居宅介護においては、通いと宿泊への従事については認められているものの「訪問」については認められていない。

このような状況で、今後、外国人介護人材が「訪問」に従事できるようになった場合、そのケアの質を担保するために以下の2点を目的とする。

- (1) 生成AIを活用し日本人介護職員による「良いケア」の言語化・マニュアル化を試み、外国人介護人材等の育成に活用
- (2) 今後「訪問」について門戸が開かれた際に安心して従事でき、在宅生活の延伸に寄与するとともに、在宅介護のスキルを本国で技能等に活用できる

## 2. 事業目標

小規模多機能では「通い」「宿泊」は、事業所においてケアを提供する機能であるが、訪問については上記2つとは異なる側面からケアを提供する機能である。ひとつは事業所内のようにすぐにアドバイスを求めることができない環境であること。もうひとつは、利用者によって異なる生活習慣や様式の中での支援となることである。

このような特徴を持つ「訪問」の場面の言語化・マニュアル化ために生成AIを活用することで、良いケアを行ううえで何気なく行っていた気配りや目配りを言語化し、日本人介護職員が行っていた無意識の行為を表出化させ、マニュアルにまとめるとともに、育成ツールとして活用する。

到達目標：外国人介護人材等の訪問に活用することができる「良いケア」をまとめたマニュアルの完成  
(マニュアルに基づくモデル研修を実施)

## 3. 事業内容

- 事業内容1. 外国人介護人材等の訪問におけるケアの質向上のための生成AIを活用したケアマニュアルの調査研究委員会の設置
- 事業内容2. 訪問における利用者が安心するケア（良いケア）の映像収集（2025.8～9月）
- 事業内容3. 外国人介護人材等向けモデル研修（実証実験）（2026.1～2月）
- 事業内容4. 報告書及びいいケア探求プログラム・キッドの作成更新（2025.10～2026.3月）
- 事業内容5. 報告会（2026.3.24）

## 4. 成果物

- 成果物①：「外国人介護人材等の訪問におけるケアの質向上のための生成AIを活用したケアマニュアルの調査研究報告書（仮称）」
- 成果物②：「自宅や地域での暮らしを支える小規模多機能ケアマニュアル（仮称）」

## 1. 事業内容

### 事業内容 1. 外国人介護人材等の訪問におけるケアの質向上のための生成AIを活用したケアマニュアルの調査研究委員会の設置

いいと思われるケア場面を録画したものを生成AIにより分析し、独居や老夫婦世帯等の認知症高齢者の自宅や地域でのケアのあり方についてディスカッションし「いいケアとは何か」をまとめるとともに、「いいケア探求プログラム・キット」の開発を行った。

#### ①委員（委員8名、回数：11回）順不同・敬称略

黒岩 尚文（株式会社浪漫／鹿児島県）

津田由起子（三喜株式会社／岡山県）

後藤 裕基（医療法人明輝会／鹿児島県）

鈴江 友香（特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎／千葉県）

安岡 英哉（社会福祉法人砥部寿会／愛媛県）

宮川 伸吾（特定非営利活動法人なごみの家／福岡県）

長澤 正憲（社会福祉法人美瑛慈光会／北海道）

三島 邦彦（株式会社sui.ing）

\*生成AI調査・分析等委託：株式会社電通

参画メンバー：小柴尊昭・工藤一郎・永山 智也・小磯達也・小橋元樹・若園祐作・池町優太・石田沙綾子

#### ②検討内容

（その1）いいケアとは何か（実践の言語化）

（その2）いいケアを実践するための育成ツール（いいケア探求プログラム・キットの開発）

（その3）モデル研修（実証実験）

（その4）報告会・報告書の作成

#### ※注意点

「良いケア」を日本人・外国人にかかわらず実践するために、マニュアルづくりが目的とならないよう、注意すること。  
利用者 一人ひとり違う人生を歩んできた方でありその日によって体調や感覚も違う。かかわる職員もそれぞれ違い、同じことをすることが正解ではない。同じケア方法を実行できることが望む姿ではなく、そのときに合わせたケアができるようにするために「考えて、行動することができる」ことが人材育成のポイントである。

### 事業内容 2. いいケアの映像収集

（1）時期：2025年8月～9月

（2）対象：委員会委員所属の法人事業所の所在地域

（3）収集映像：159映像（延べ100時間を超える映像データ）

# 1. 事業内容（続き）

## 事業内容 3. 外国人介護人材等向けモデル研修（実証実験）

- (1) 時期：2026年1月15日－2月15日
- (2) 場所：委員会委員法人・事業所
- (3) 対象：外国人介護人材を含む、介護職員
- (4) 作成した「いいケア探求プログラム・キッド」を活用して、各事業所において実証実験を実施研修を実施し「心得・所作」をはじめとした研究開発物の検証を行った。

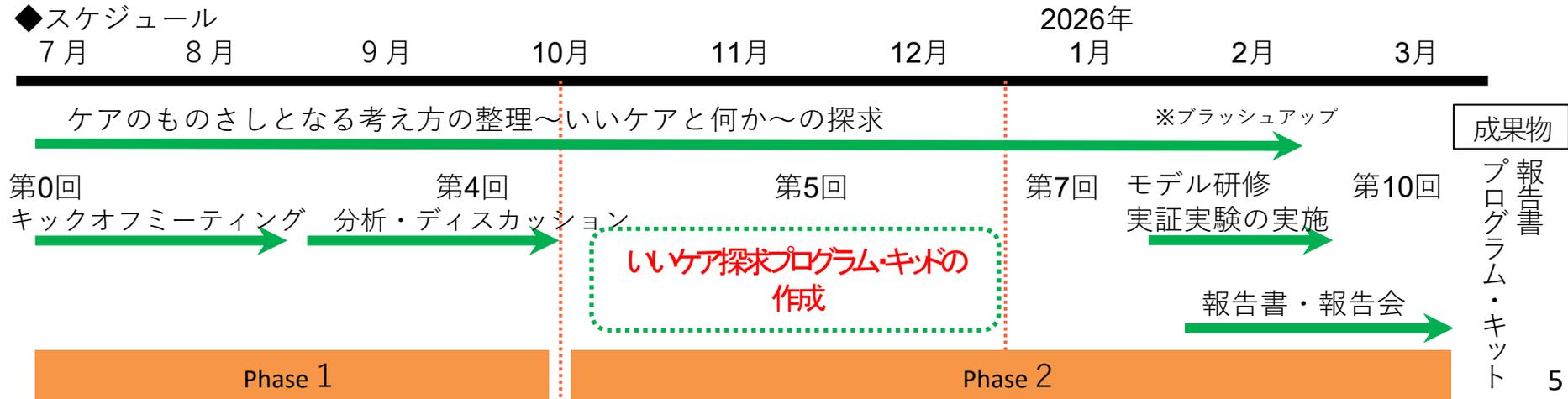
## 事業内容 4. 報告書及びいいケア探求プログラム・キッドの作成/更新

- (1) 時期：2026年2月～3月
- (2) 場所：東京都内
- (3) 対象：50部を協力事業所及び関係機関・団体等に配布（予定）
- (4) 内容：事業内容1～3までで議論された内容をまとめ、マニュアルを作成するとともに、事業全体の概要を報告書にまとめ収録する（予定）

## 事業内容 5. 報告会

- (1) 時期：2026年3月24日（火）
- (2) 電通会議室（東京都港区）
- (3) 約40名（予定）
- (4) 事業内容1～4までの内容を報告会を開催し報告する。

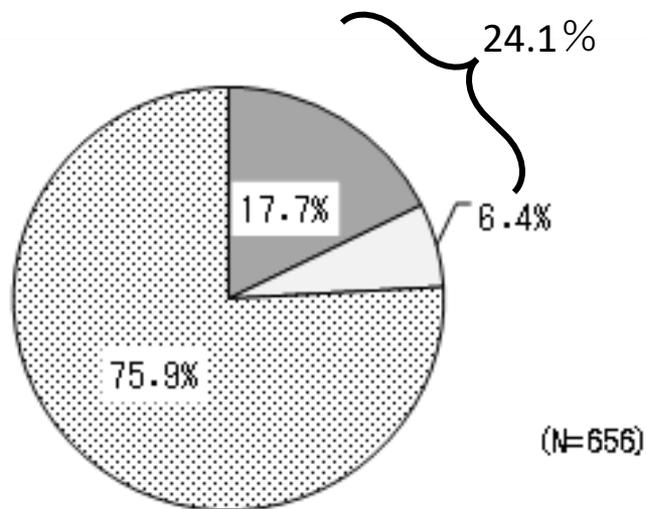
### ◆スケジュール



# 【外国人介護人材】小規模多機能型居宅介護における採用状況

外国人介護人材の活躍については、小規模多機能型居宅介護において17.7%の事業所が採用しており、今後もますます増加する傾向にあると考えられる。

利用者や利用者家族へのヒアリングにおいても否定的な意見は少なく、肯定的な意見が多い。



- 現在採用している
- 現在は採用していないが、過去に採用したことがある
- 採用していない、過去にも採用したことがない

## ◆利用者ヒアリング

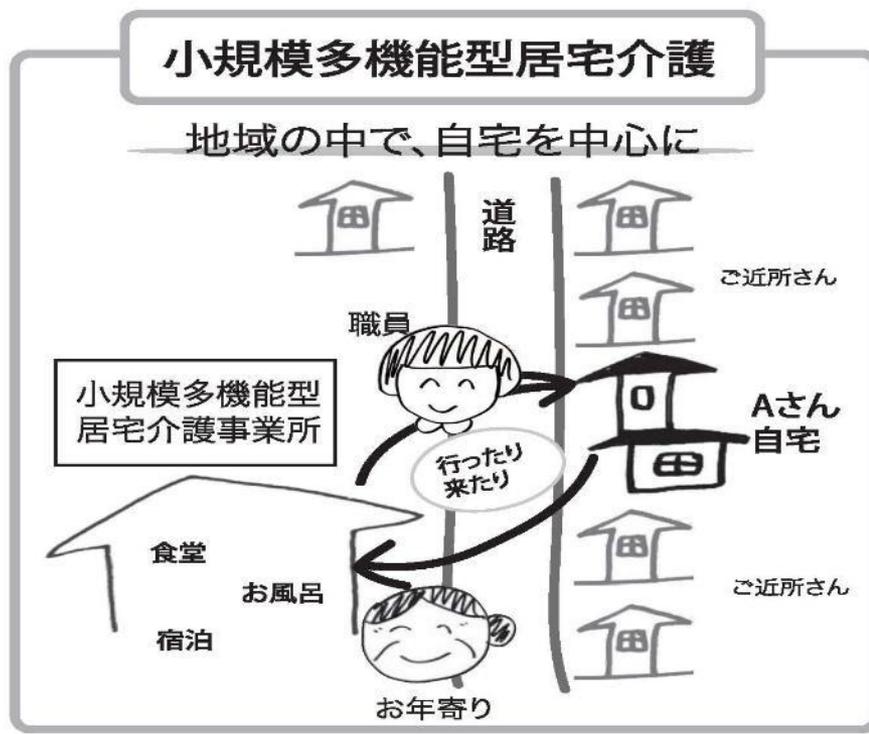
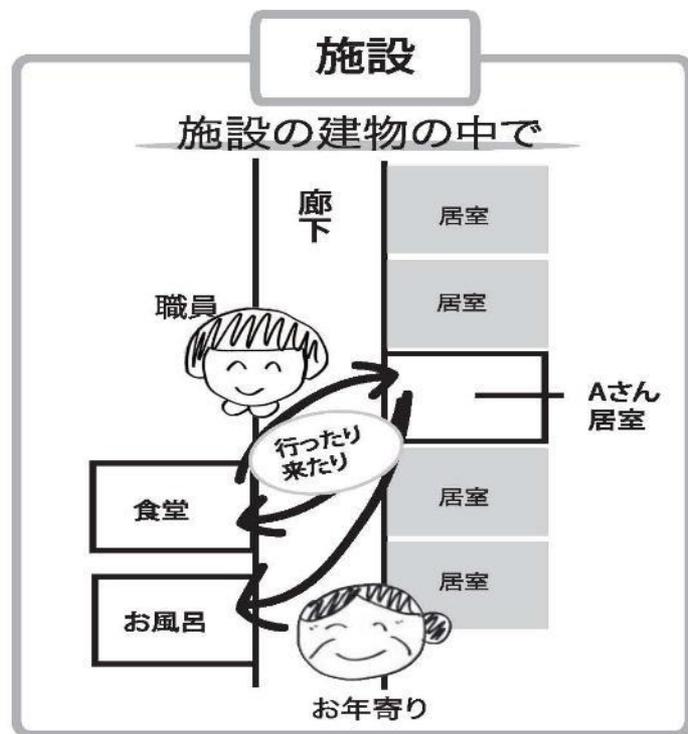
(90歳を超える3名の利用者から)

- 日本語をよく勉強している
- (職員が外国人であることで)困ったことはない
- 懇切丁寧に対応してくれ、良く働いている
- (宗教的にヒジャブを着用していることに対して)頭にかぶるのは抵抗ない、日によって色が変わって楽しみ
- (外国人介護人材に)方言も教えている

## ◆利用者家族ヒアリング

- 日本人の同世代より優しさを感じる
- 笑顔が感じが良い
- 固定概念がない
- 日本人であろうと外国人であろうとコミュニケーションが大切
- (国籍ではなく)会話でその人がどういう人かがわかれば安心

# 小規模多機能型居宅介護は、月額のパッケージ報酬で「通い」「宿泊」「訪問」機能を駆使し、施設の持つ24時間・365日の安心が地域の中で実現するようなイメージ



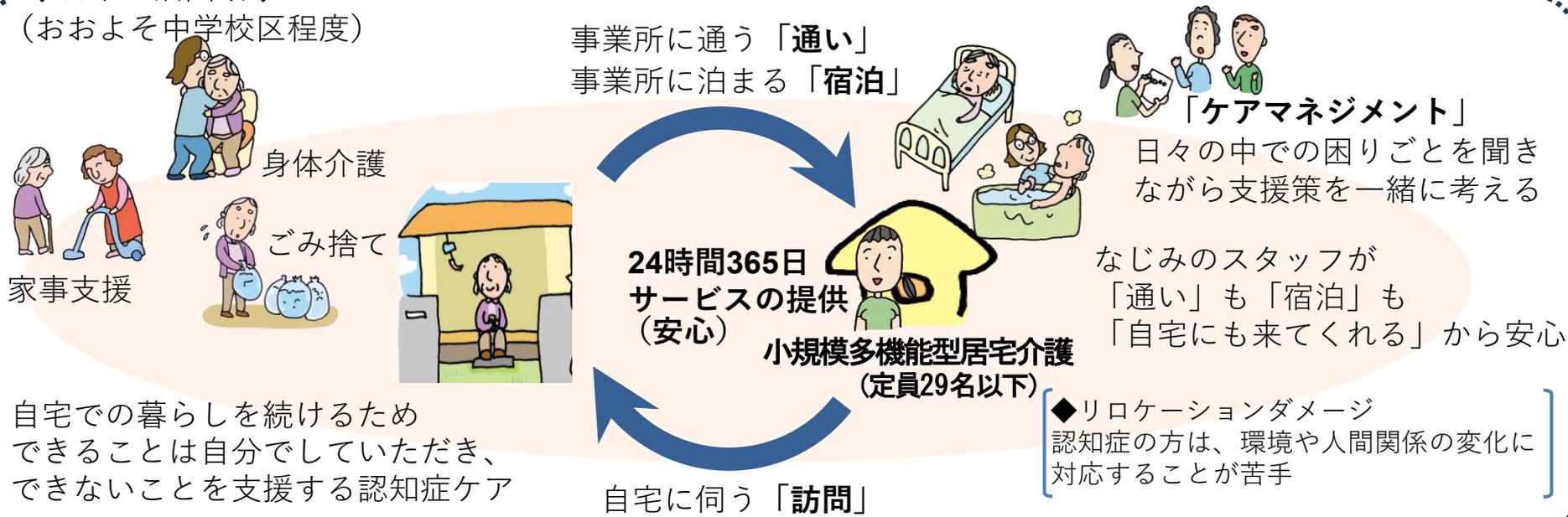
小規模多機能型居宅介護サービスは、施設の在宅版のようなサービスです。施設の居室を自宅と捉え、廊下は道。施設の職員が居室にお邪魔するように自宅に訪問したり、日中のつどいの場として食堂へ集まるように事業所に通います。「通い」や「宿泊」「訪問」といったあらゆる機能を使って、自宅での暮らしを支えています。

# 『小規模多機能型居宅介護』とは

- 一つの事業所に、通って、泊まって、自宅にも来てくれて、相談にもものってくれる、オール・イン・ワンの介護保険（地域密着型サービス）
- 2006年（平成18年）に制度創設（介護保険法改正）

## ◆日常生活圏域◆

（おおよそ中学校区程度）



○ 令和7年10月現在、全国で5,291か所

○ 利用者は、全国で約10万人。

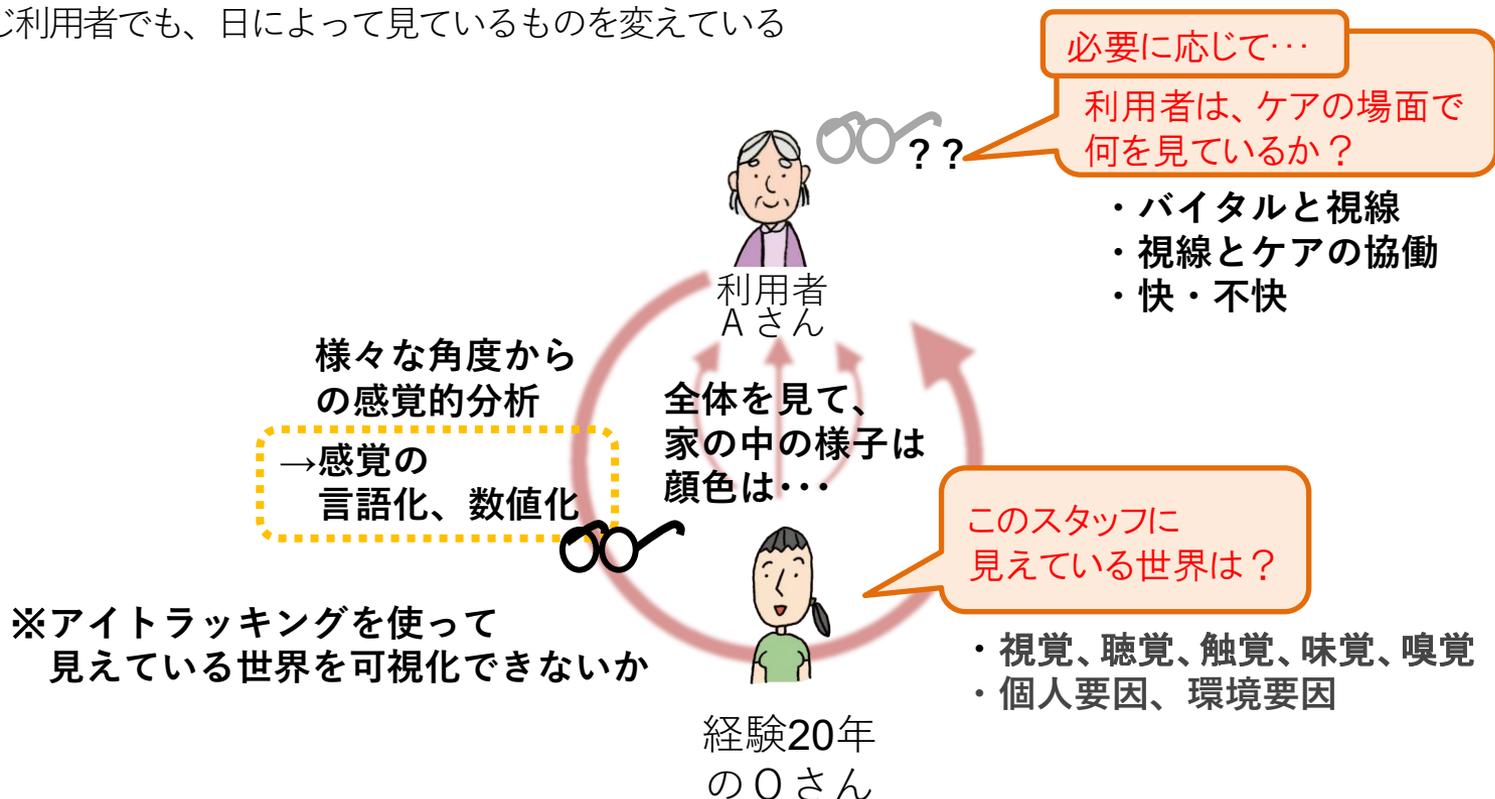
そのうちの5割以上が独居や老夫婦などの高齢者のみ世帯であり、9割の方が認知症。

《認知症高齢者の在宅での暮らしを丸々ご支援できます》

## 出発点

すごいと言われるプロが見えている世界を可視化し、外国人をはじめとした介護職員のケアのための育成ツールを開発したい

- ・何を見て、何は見ていないのか（瞬時にすべてを把握・分析・行動はできない）
- ・五感を使ってケアしているのではないか（言語化・数値化すべき感覚は何か）
- ・利用者を捉える視点がポジティブ（できることに目を向けている）なのではないか
- ・利用者や利用者のおかれている家庭（自宅）環境によって、みているもの・ことが違うのではないか
- ・同じ利用者でも、日によって見えているものを変えている



### 【検討で注意すべき事項】

- ・「こうすればいい」というマニュアルではなく、どうすべきかを考えられるツールを軸にする（個別性が高いため、利用者AさんとBさんでは同じマニュアルが使えないことと同様に、事業所CとDではケア方法が異なるため、一般化しにくく「マニュアル」ではない問題提起型の「考える」ための付箋機能のようなものではどうか）
- ・人が生きていくうえで必要な支援（生理的欲求・安全欲求／人であれば変わらない支援（マニュアル化？）は検討しなくてよいか）

# イトラッキングを活用した「ケアの可視化」

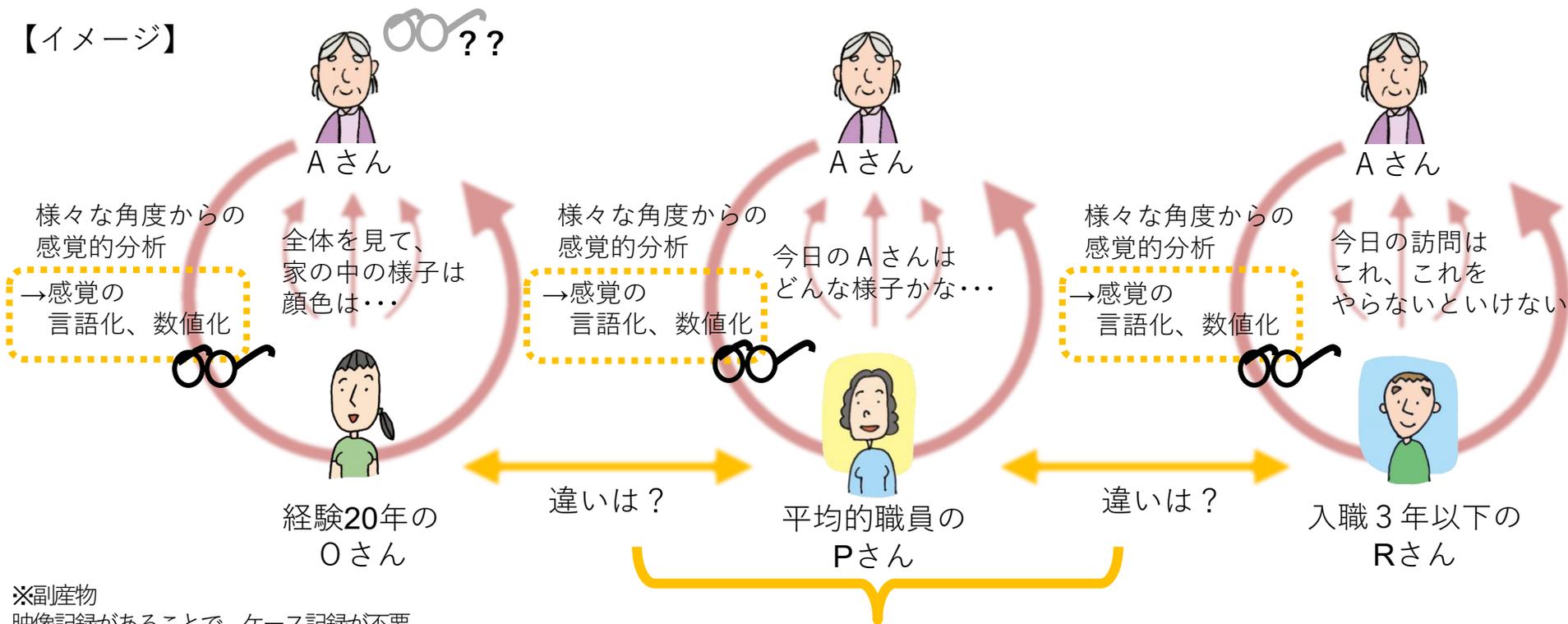
同一利用者の自宅での支援を、3人の階層別職員により行った際の違いを比較することで、ケアに関して見えてくることがないか

- ・1回15分程度の自宅での訪問を3人の職員が日を変えて同じ場面で実施
- ・各職員にはイトラッキングを利用して、その場면을記録(映像)
- ・職員のかかわりを可視化する際に、記録映像のほかに可視化することができることはないか  
(視線、声がけ、タッチング、返答の回数・内容…そのほかは？／五感)
- ・利用者がイトラッキングを使うと、何か可視化できるか(「視線」「快・不快」とか、バイタル、健康状態…)

※考えなければいけないこと

- ・どの場面を録画するか(直接生活介助、間接生活介助、認知症関連、機能訓練関連行為、その他)
- ・しなかったことを、どう見える化できるか(あえて「しない」ケアをどう考えるか)
- ・最初から「共通項」探しをしない(たぶんつまらないものになる)
- ・職員が、そのシチュエーションで自ら考えることを促すような装置(理由:利用者によってケアの個別性が高く、同じ方法が通用しないから)

## 【イメージ】



## ※副産物

映像記録があることで、ケース記録が不要  
 必要であれば、映像から会話記録(文字起こし及び要約)  
 どんな言葉を何回言っているか(データ化)  
 \*例えば、あえてやらなかった理由をつぶやいておくと  
 蓄積できて、何かに使える?

違いから見えてくるもの → その場面で何を考えなければいけないか  
 (付箋で目配り、気配りする、答えではなくヒントが出てくる?)

## Tobii Pro グラス3

- Tobii社はアイトラッカーの業界首位
- メガネ型で最も高い精度
  - 注視場所の特定は手元で指単位の精度
- 度付きレンズを装着可能
  - メガネonメガネは不可
- 保育士調査の事例あり
- 本体価格は高額だがレンタル可能
  - 新型(グラスX)はレンタル不可かつ精度で劣る
  - レンタルであれば複数台準備可能



## 生成AIを用いた大量のデータ分析と示唆出し

### 生成AIである“Google Gemini”を用いた動画分析

- Geminiは撮影動画（アイトラッカー動画を含む）と適切な指示により時系列順の動画内容把握や、全体のまとめ、示唆出しが可能です。人間がすべての分析をおこなうと膨大な時間とお金を要してしまいますが生成AIにより現実的な時間で分析が可能です。



#### 事前準備

探究キットの実施



AIツールの契約



スマートグラスの準備



関係者の承諾

#### 記録

充電済みグラスを装着した職員が介護を実施



※オプション  
バックアップとして  
定点カメラでも撮影



#### 分析

動画データを取り出し  
必要に応じてMP4に変換



AIツールにMP4動画を  
アップロード



AIツールにプロンプトを  
コピペし分析



#### 議論

動画をみんなで振り返り  
「ひとりの客観的な意見」  
としてAI分析を確認



AI分析だけを鵜呑みにせず  
さらに議論を深める

何かとエビデンス（根拠）とは言うけれど

**いいケアの数量化は難しい・・・**

（わかりやすさは数量化ではない?!）

# 【“小規模多機能”の価値】時代は定量データから定性データへ

ケアの概念の変化やこれからの小規模多機能型居宅介護の価値を表現していくためには、従来の定量データではなく、定量×定性の統合が必要である。

生産性	注視する質	利用機器等	改善の内容	基準	満足点及び満足度
	評価方法・方式				
物理的 労働生産性	業務の質向上 定量評価  (減点方式) * 事故を起こさない、手順を間違えない	・チャットワーク、 インカム、 眠りスキャン 等	・生命の維持・ 安全の確保  * 3M (ムリ・ムダ・ムラ)の削減	・作業ベース  * マニュアル化しやすく、正解が決まっている	・労働負担の軽減 ・職場環境の改善  満足感よりも責務
付加価値 労働生産性	ケアの質向上 定性評価  (加点方式) * 利用者の喜びや「できた!」という瞬間を増やしていく、プラスを作るアプローチ	・スマートグラスや生成AI	・尊厳の保持 ・自立支援  * その人らしさの引き出し、意欲への支援	・コミュニケーションベース  * 相手や状況によって答えが異なるため、コミュニケーションと試行錯誤が必要である	・やりがい ・楽しさ ・モチベーションの向上  ステークホルダー (SH) の満足度 (利用者、利用者家族、地域、職員)

時間が短縮されても、利用者の満足度が下がれば本末転倒。記録が効率化されても、ケアの質が低下する可能性がある。よって、定量データだけでは「本当にいいケアになっているか」が判断できない

→ケアの質を可視化し、利用者の満足度 (意欲向上や安心、笑顔の増加等) を高めるためには・・・



# 実証実験データを可視化する



# 【定量×定性】素早い行動ではなく戦略的なラグ（待つ）をつくる

「いいケア探求プログラム」の実証実験を通じて収集した159映像を生成AI分析（Google Gemini）にて可視化したものを元データとし「いいケア」と思われる言動を定量化しつつ、定性情報を加えたもの。

（注）元データにはミリ秒単位での厳密な注視時間や反応ラグの数値データが含まれていないため記録されているタイムスタンプや各動画の傾向分析（定性評価）の記述を統合・推計し、統計的な要約として作成。

## 1. 注視時間の分布

利用者の顔を見る時間の推定値データ内の各職員の傾向記述を統合した、利用者の顔（または対象物）への注視時間の分布



### \* 状況

移動中の安全確認、環境スキャンニング、業務物品の配置確認など

### \* 特徴

状況を素早く把握するため、複数の対象を次々と切り替えるリズムカルな視線移動（サッカード）が行われている

### \* 状況

通常のコミュニケーション。食事介助時の嚥下確認、脈や血圧の数値確認など

### \* 特徴

相手の反応や安全を確認し、次の行動を決定するための標準的な情報収集時間として機能している

### \* 状況

利用者が深い感情を吐露している時の傾聴、あるいは発語など自発的な行動を「待つ」場面

### \* 特徴

作業を完全に止め、利用者の顔（特に目元や口元）に視線を固定し、相手のペースを尊重し受容する姿勢を示している

いいケアとは、行動に合わせた意図をもったまなざしが必要である

## 2. 声かけから介助までの相関

反応ラグと注視対象の違い「声かけ（観察）」から「身体的介助（アクション）」に至るまでの時間（反応ラグ）の長短によって、注視対象に明確な違いが見られた

**反応ラグが短いケース**  
(即座の介助 / 1~2秒以内)

\* 注視対象  
「ケア対象部位（腕・足など）」  
と「使用する道具・環境」に集中

\* 特徴  
バイタル測定、歩行時の障害物回避、排泄介助など、手順化されたルーティン業務や安全確保が最優先される場面。対象を確認後、間髪入れずに的確な介助を実行している

**反応ラグが長いケース**  
(間を置いた介助 / 数秒以上)

\* 注視対象  
「利用者の顔（目・口元）」と「利用者の手元」に集中

\* 特徴  
食事介助での咀嚼・嚥下待ち、更衣時の自発動作の見守りなど。声かけ後すぐには手を出さず、利用者の意欲やペースを引き出すため、あえて介助を遅らせる「待つ技術」が発揮されている

## 3. 熟練度別の傾向

経験年数による「反応ラグ」のコントロール差 職員の経験年数データと行動パターンを比較した結果、熟練度によって「反応ラグ（観察から行動までの時間）」の使い分けに差があることが示唆



中堅・熟練職員  
(経験10年以上)

### \* 傾向

状況に応じて「反応ラグ」をダイナミックに伸縮させる能力（スイッチング）に長けている

### \* 数値的特徴の推計

危険予測やルーティン作業の判断は「**ほぼ0秒（即応）**」で行う一方、**利用者の自立支援や感情のケアにおいては、沈黙を恐れず「5秒～10秒以上のラグ（待機）」を意図的に作り出している。**

また、介助中であっても視線が一点に固執せず、フロア全体を定期的にスキャンする「分配的注意」の技術が発達している。



若手職員  
(経験数か月～5年未満)

### \* 傾向

業務の確実な遂行に重きが置かれ、対象物の確認から行動までのサイクルが一定のリズムで繰り返される傾向がある。

例えば経験2か月の職員は「器具の準備→利用者→装着」と、**マニュアルに沿った一貫したパターンでラグが比較的均一**である。

いいケアとは、かかわる内容によって反応ラグ（待つ）を自在に操ることができる

# 【定量×定性】素早い行動ではなく戦略的なラグ（待つ）をつくる

## 【ケアの質向上へのエビデンス】

本分析から、質の高いケアは単なる「素早い（手際よい）行動」ではなく、「意図的な注視（観察）」と「戦略的な反応ラグ（待つこと）」によって構成されていることが定量・定性的に示された。特に、熟練者に見られる「利用者のペースに合わせて介助を遅らせる技術」や「顔（目元・口元）への長時間の注視」は、利用者の自立支援と信頼関係構築に直結するエビデンスと言える。今後の新人教育において「どこを見るか」だけでなく「どれくらい待つか」を指標に加えることが有効と考えられる。



※Google Geminiで作成

# 【外国人介護人材等】生成AIが人のやさしさや思いやりを育む

## \* スマートグラスの役割

ベテランの先輩が介護中に「どこを見て、どう動いているか」を、メガネ型カメラの映像でそのまま疑似体験でき、外国人の人が自分で介護している様子も録画できるので、あとで先輩と一緒に映像を見ながら「ここはこうするともっといいね」と**わかりやすく振り返りができる**。

## \* 生成AIの役割

録画した映像を生成AIが見て、「あそこで、利用者の顔をしっかりと見ていたのが良かったね！」と良いところを見つけて褒めてくれたり、「なぜあの時、手を出さずに待ったの？」と考えるヒントを与えてくれる。また、難しい日本の「介護の心」を、外国人の人に伝わるように生成AIが優しく翻訳してサポートすることができる（**多言語対応**）。

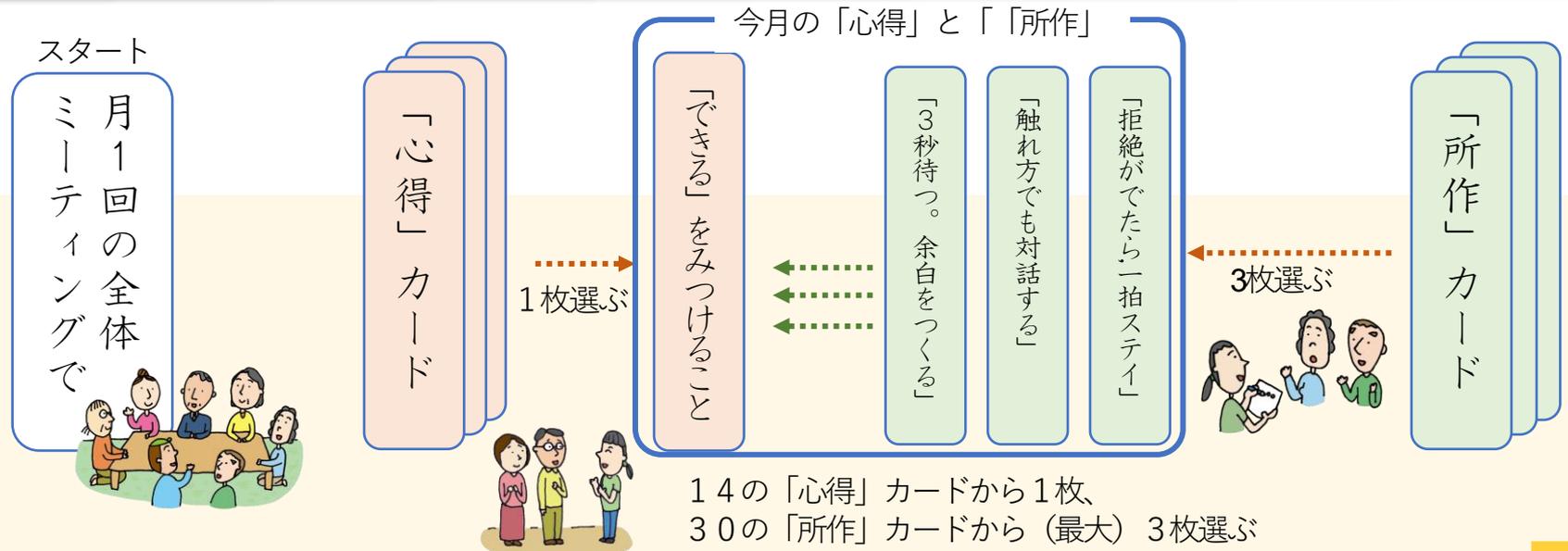
ただマニュアル通りにお世話をするだけでなく、利用者の「自分でやりたい！」という気持ちを応援できるような支援が可能となる。データや映像の振り返りから、目線を合わせたり、優しく声をかけたりするコツがわかることで、利用者が安心して、笑顔で仲良くなれるケアができる。この仕組みは、外国人の人が言葉の壁を越えて活躍できる、これからの**高齢者が自宅で安心して暮らせる「未来の介護のカタチ」**のとなりうるものである。

「生成AIや最新機器が冷たく管理する」のではなく「**生成AIが人の優しさや思いやりを育ててくれる**」という新しいテクノロジーの使い方がポイントである。

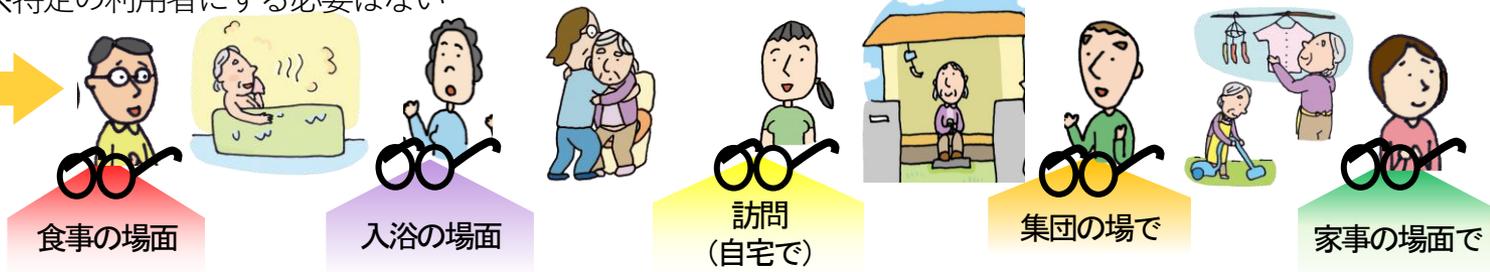


※Google Geminiで作成

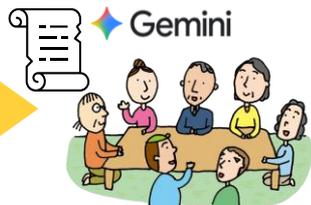
# いいケア探究プログラム「ケアのまなざし～いいケアを導く14の心得と30の所作～」



チームのみんなでチャレンジ（2～3週間）日本人も外国人も一緒に学び合う  
※特定の利用者にする必要はない



映像収集・AI分析



※プロンプトに当該「心得」や「所作」を入れての分析は必須ではない。

1か月後の全体ミーティングで「振り返り」

**Point !!**

特定の「誰か」ではなく、チーム全体を評価する（できた部分を褒めあう）  
次回の「心得」カードの選定と「所作」カードの選定

## 1. プロ（熟練者）がなぜプロなのかを明らかにする生成AIの可能性

スマートグラスを用いた一人称視点の映像記録と、生成AI（Google Gemini）による分析を掛け合わせた手法は、介護現場での職人氣質の「真似ること」から脱却し、従来の指導法では到達困難であった「暗黙知の形式知化」と「学習者の受容性向上」の両面において新たな可能性を見出すことができる。

### （1）熟練者が「見えている世界」の共有

- ・言葉では伝えきれない「ケアの間（ま）」や「空気感」といった非言語情報を可視化
- ・熟練者の「ケアする側が見ている世界」を客観的な事実として共有できる

### （2）素直に聞くことができるAIからのアドバイス

- ・「人間ではない存在からの客観的評価」として、驚くほど好意的に受け入れられる
- ・人間関係のしがらみを切り離し、純粹に「いいケア」と向き合える

### （3）膨大なデータの処理と行動の言語化による深化

- ・膨大なデータ処理と行動の言語化
- ・無意識に行動している行為一つひとつを言語化し、無自覚だった行動の見える化に成功

## 2. 世界初?! 生成AIで人を磨く

最新の介護・福祉分野における生成AIの潮流を見ると、「対話型AI」「フィジカルAI」「予測・分析AI」「視覚・環境AI」「業務最適化AI」という5つの類型で技術開発が進んでいる。これらに共通するのは、不足する労働力をいかに補うか、いかに効率的に業務を処理するかという、いわば「人の代替」としてのテクノロジーへの期待である。

しかし、今回私たちが取り組んだスマートグラスとGoogle Geminiを活用した挑戦は、そのいずれの類型にもあてはまらない。既存の技術が「人に代わるもの」として開発されているのに対し、私たちの実践は、**生成AIを用いて人間にしかできない価値を最大化させる「人を磨くもの」としての開発した世界初の試み**（自称？）である。

（参考）介護・福祉分野における5つの類型（事務局調べ）

AIの類型	主な役割	具体的な活用例
対話型AI	孤独解消・認知機能刺激	AIパートナー、回想法の聞き役
フィジカルAI	身体的負荷の軽減・移動支援	移乗介助ロボット、自動配送ワゴン
予測・分析型	事故防止・健康管理	転倒リスク予測、脱水症状の予兆検知
視覚・環境型	見守り・状態把握	非接触バイタル検知、食事摂取量解析
業務最適化型	事務負担軽減・連携強化	記録の自動生成、ケアプラン作成支援

## 【参考】 Geminiに「Geminiの個人情報保護について」を聞いてみました

Gemini (Google) における個人情報の保護については、非常に重要な関心事ですよね。結論から申し上げますと、お客様のデータは強力なセキュリティ技術によって保護されていますが、「どのように使われるか」については、お使いのプランや設定によって異なります。主なポイントを整理して解説します。

### 1. データの保護と管理

Googleは、プライバシー保護のために以下のような対策を講じています。

**暗号化:** Geminiとのやり取りは、デバイスからGoogleのサーバーに送信される際、およびサーバー内での保存時に暗号化されます。

**管理権限:** 過去のやり取り（アクティビティ）をいつまで保存するかは、ユーザー自身が設定からいつでも変更・削除できます。

### 2. データの利用目的（学習への利用） ここが最も重要な点です。

無料版の場合: デフォルトの設定では、サービスの向上（モデルの改善）のために、人間のレビューア（確認担当者）が会話内容を匿名化した上で確認する場合があります。そのため、氏名、住所、機密性の高いビジネス情報などは入力しないことが推奨されています。

**対策:** 「**Gemini アプリでのアクティビティ**」の設定をオフにすることで、今後の会話がモデルの学習に使われるのを防ぐことができます。

**有料版（Gemini Advancedなど）の場合:** 個人向け有料プランでも、基本的には無料版と同様のプライバシーポリシーが適用されますが、設定で学習をオフにすることが可能です。

**ビジネス・教育向け（Google Workspace用Gemini）の場合:** Google Workspace EnterpriseやBusinessなどの**法人向けプランでは、入力したデータがGeminiのモデル学習に使用されることはありません**。企業秘密や業務上の個人情報を扱う場合は、この法人向け環境が最も安全です。

### 3. 注意点

Geminiなどの生成AIを利用する際は、以下の「3つの原則」を意識しておくとう安心です。

**機密情報を入力しない:** 学習オフ設定にしていない限り、誰かに見られる可能性があるという前提で利用する。

**設定を確認する:** Gemini アクティビティから、自分の履歴がどのように保存されているか定期的にチェックする。

**公式ヘルプを参照する:** プライバシーポリシーは更新されることがあるため、最新のGoogle プライバシーセンターを確認する。